月刊 あなたにこの本を！ 平成 26 年 8 月号

大阪市立図書館　「あなたにこの本を！」選定委員会

大阪市立図書館が購入した新しい本の中から、図書館員のおすすめの本を紹介します。

・・・字が大きめ　・・・中高生にも　・・・図・写真が多い

※価格のあとの（　）内の番号は、大阪市立図書館書誌 ID です。

瀬戸内海モダニズム周遊

橋爪紳也　著
芸術新聞社　2500 円　（0012979400）

ジャンル ： 歴史・文化に親しむ

都市文化論を専門とする著者が、絵葉書や案内書などをもとに、明治期から戦前までの瀬戸内海の観光開発史を述べる。汽船会社が新航路を開設したことにより、瀬戸内海沿岸都市の発展が促された。この時、各社は競い合って案内書でモデルコースを提案し、広報誌で名所を紹介して、観光地を宣伝した。案内書に添えられた鳥瞰図（ちょうかんず）など、多数掲載されている図版からはモダニズムが広まった当時の雰囲気が感じられ、瀬戸内海周遊の旅へと誘われる。〔217.4〕

お父さんがキモい理由を説明するね
ー父と娘がガチでトークしましたー

中山順司　著
泰文堂　1200 円
（0012962307）

ジャンル ： 子どもの成長のために

娘の恋愛相談をきっかけに父と娘が真剣に議論してみた。テーマは「夢と目標」「いじめ」「友情」など、思春期に一度は頭を抱える身近なものばかりだ。父親を「キモい」と思う理由を聞くと、「気をひこうとしてるのミエミエだから」と返す。生きる意味について問うと「自分が未来の人のために役に立つよう、今を頑張ること」と答える。対話を重ねる努力をすることで、本音で話し合える間柄を築けたと著者は言う。思春期の娘にとまどう父親におすすめの一冊。〔367.3〕

江戸の化物
ー草双紙（くさぞうし）の人気者たちー

アダム・カバット　著
岩波書店　2400 円
（0012891428）

ジャンル ： 歴史・文化に親しむ

アメリカ人の著者は、源氏物語をきっかけに日本に留学し、そこで草双紙と出会った。草双紙とは、江戸で流行した「絵入りの通俗読み物」、江戸のコミックスとも言われるもので、豆腐小僧、見越し入道などの化物たちが活躍する物語が多かった。本書では、彼らに魅了された著者が、その愛すべきキャラクターの歴史と魅力を余すことなく語りつくす。十返舎一九の描くほのぼのとした化物の図や、豆腐小僧のビジュアル変遷など資料も豊富で、読み応え十分だ。〔913.57〕

生きる力、絵本の力

柳田邦男　著
岩波書店　1500 円
(0012893384)

ジャンル　：　生き方・考え方に学ぶ

絵本は幼い子どもが読むものだと思われがちだが、著者はそれを否定する。様々な問題があふれる現代において、絵本は大人の心にも子どもの心にも潤いをもたらし、生きるうえで本質的に大事なことに気づかせてくれる表現媒体だと著者は言う。人生の困難に直面した人々が絵本によっていかに生きる力を取り戻すのか、エピソードを交えてわかりやすく語られる。絵本がもつ深い意味に気づかされ、幼いころに親しんだ絵本を、もう一度味わいたくなる一冊だ。〔019.5〕

フォト・ドキュメンタリー人間の尊厳
ーいま、この世界の片隅でー

林　典子　著
岩波書店　1040 円
(0012911390)

ジャンル　：現代社会を見つめる

気鋭のフォトジャーナリストである著者は、世界各地で現地の住民と生活を共にして取材をする。ニュースになることのない、社会の片隅で生きる人びとのことを伝えたいとの思いを抱いて著者は現地に赴いた。ガンビアでは、政権への批判記事を書いた記者が襲撃され、警察はまともな対応をしない。独裁政権下でごく普通の出来事として生きる人々に、著者は心を重ねる。世界には人間の尊厳が奪われている現実があることを、写真を通じて鮮烈に伝えている。〔360〕

名づけの民俗学
ー地名・人名はどう命名されてきたかー

田中宣一　著
吉川弘文館　1700 円
(0012911464)

ジャンル　：　知識・教養を深める

本書は、人名や地名、山や川の名前、動植物名など、さまざまなモノの名づけについて、民俗学の研究成果も交えて、わかりやすく解説する。命名には、「駒ケ岳」という山名のように特徴を捉えた「名づけ的命名」と、「希望が丘」という町名のように期待を込めた「名のり的命名」があるという。著者は、今までの民俗学では語られなかった後者に注目し、今後それが増加すると考察する。現代の命名事情などにも言及され、名づけについて新たな発見がある。〔380.1〕

カヤネズミの本
ーカヤネズミ博士のフィールドワーク報告ー

畠　佐代子　著
世界思想社　2200 円
(0012885308)

ジャンル　：　自然・環境を考える

カヤネズミは人の親指ぐらいの小さなネズミで、カヤで作った巣に住み、子育てをする。昔は日本人にも身近な存在だったが、生息地である河原の草地や農地の減少により、今では絶滅が危惧されている。著者はカヤネズミの保護活動にも携わり、生息地の全国調査や情報ネットワークの設立、また彼らに配慮した除草の提唱などを行ってきた。本書は著者の 16 年にわたるフィールドワークの成果であり、カヤネズミを知ってほしいという思いがこめられている。〔489〕